

問題【国語】

今回は敬語がテーマ。下線部を適切表現に直しなさい。

- (1) どうぞご自由に食べてください。
- (2) 先生はお先にお帰りになりました。

豆知識 雑学コラム

尊敬語に3パターン

今日は敬語のうち、尊敬語について見ていきましょう。尊敬語は目上の人、尊敬する相手がする動作に対して使う言葉です。動詞を尊敬語に直すときには三つのパターンがあります。まずは、そのパターンから見ていきましょう。

一つ目は「食べる」を「食べられる」のように尊敬を表す助動詞の「れる・られる」を使うパターンです。「れる、られる」には受身や可能の意味もあり、今回の(1)の場合に「食べられてください」というと相手に受身の意味でとらえられてしまう可能性があります。使わないように、注意しましょう。二つ目は「食べる」を「お食べになる」のように「お～になる」というパターンです。このパターンで注意しなければならないことは「乗車する」や「説明する」のように「名詞+する」でできている言葉の場合です。この時には「お乗車になる」や「お説明になる」とは言わず、「ご乗車になる」や「ご説明になる」といいますよね。最後は「食べる」を「召し上がる」のように尊敬の意味を持つ動詞に変えるパターンです。「召し上がる」以外に、「言う」の意味の「おっしゃる」や、「行く、来る、いる」の「いらっしゃる」などがありますね。以上、三つのパターンを覚えて尊敬語を使いこなせるようにしましょう。

さて、(2)の問題文を見てみましょう。「お帰りになられ」は、動詞の「帰る」を尊敬語の「お帰りになる」にして、それに助動詞の「れる・られる」がついた形ですね。先生への敬意の大きさからか、一つの動詞に二つも尊敬語がついた言葉遣いになっています。この一つの動詞に二つの尊敬語が入っていることを二重敬語と言いますが、この場合、敬意の大きさは変わるのでしょうか。残念ながら、二重敬語の「お帰りになられ」と言っても尊敬語の「お帰りになり」や「帰られ」と言っても敬意の大きさは変わりません。むしろ、「お帰りになり」や「帰られ」といえばよいことを、「お帰りになられ」と回りくどい表現をしているなど話を聞いている相手に思われてしまいます。二重敬語は回りくどい表現で良くないとおさえおきましょう。

【解答】

2. お帰りになり、召し上がりました。(2)

2. お帰りになられ、召し上がりました。(1)